

新入生に贈る言葉

館長:小倉繁太郎

Information①

◆図書館からのお知らせです

■春季の長期貸出の返却期限は4月18日(火)です

4月18日は、返却が集中してカウンターが混雑しますので、早めの返却をお願いします。閉館中は図書館玄関横の返却ポストに返却してください。

■4年生の皆さんへ

4年生は貸出冊数が増えて、8冊まで貸出できるようになります。卒業制作・論文や就職活動に有効に利用してください。

■神戸芸術工科大学紀要『芸術工学2005』が刊行されました

2004年度までは冊子体でしたが、2005年版からはWeb化されました。大学のホームページ、図書館のホームページトップ画面からもご覧頂けます。また、発行のご案内として要旨集を刊行しました。図書館カウンター右横に前年度までの紀要とともに置いてありますので、ご自由にお取りください。

入学おめでとうございます。大学も今年より新しい学部・学科が増設され、記念すべき年度に当たります。また皆さんにとっても新しい友人や知識に邂逅し、一生のお付き合いが始まる記念すべき時期です。自分にとって何が大切か何に取り組むか既に決めた方もこれから決めたい方も、積極的な対応が求められます。それは、随筆家の寺田寅彦著「柿の種」に、「畑にまいた一粒の柿の種 - 実るも実らぬも、甘いも渋いも、畑の土のよしあし」という言葉がありますが、己の責任の上で、自分の資質を信じ、信じた方向で各自大いに飛躍して最大の変身あるいは発展を遂げて頂きたいからです。

また最近、有川浩という新人女性作家が出現しました。最新刊に「図書館戦争」という本が出たばかりですが、近未来に起こる図書館の役割についてフィクションから問題点を興味深く

考えさせてくれました。既刊の「海の底」、「空の中」などと併せて新しい分野の小説が開拓されつつあることに久しぶりに興奮を覚えています。彼女同様、皆さんの持つ今までに無い新鮮な感性をデザインや芸術作品にとりこむための情報・知識を是非図書館でもじっくり取り組んで見つけ出していただけたらと願っております。

本学図書館は皆さんにとって開かれた利用しやすく、かつどのデザイン・芸術の分野でも貴重な探索の場所です。図書館窓口で言葉を交わすお姉さん達と気軽に会話しながら、まずは本の海を漂って下さることを心より祈っております。

読んでみよう! 見てみよう! The Japanese box

60年代末から70年代に、日本が創出した写真表現の写真集や雑誌を集めて、パリの7Lが編集しゲッテンゲンのシュタイデル社が印刷、販売したものです。今では伝説的な写真出版となった、高梨豊、中平卓馬、森山大道、多木浩二、岡田隆彦の写真同人誌「Provoke」、中平卓馬「来たるべき言葉のために」、森山大道「写真よさようなら」、荒木経性「センチメンタルな旅」の6冊が復刻されて木箱に収められています。

日本の写真家の作品集は、一部のタレント本などを除いて、大体が二千部くらいの少部数でしか出版されることはありません。著名な写真集でも出版されたとき店頭と並んで終わりです。増刷など滅多にないので、歴史に残るような写真集を手にするのはとても難しい事になっています。こうした写真同人誌や写真集が、フランスとドイツの人々によってJapanese boxと銘打たれ国際出版されたのは、ようやく今頃になって現代日本の写真表現が世界に認知されたという事なのかもしれません。

黒い木箱から出てくるイメージは、どれもこれもザラザラで真っ黒な、いわゆるブレ、ボケ、アレ写真です。原本が出版された時代を知っているの、この玉手箱を開けたために白髪になってしまった私がいるような、不思議な気持ちにさせる箱なのです。

先端芸術学部の巻 宮本隆司先生(メディア表現学科)

下の写真は宮本先生が写された「The Japanese box」の写真です



図書館のお宝

森下明彦先生(造形表現学科)

下の写真は森下先生からご紹介があった雑誌の写真です。図書館では貴重書として所蔵しています。



図書館にはたくさんのお宝があります。その中のセレブが貴重書と呼ばれるもの。例えば、オランダの雑誌、「デ・スティル」や「ウェンディンゲン」。特に全冊揃いの前者は世界的にも貴重なコレクションです。あるいは、本学の祖先といえるデザイン学校、バウハウス。わずか14年ほどの存在でしたが、後世に極めて大きな影響を与えています。その関連資料の内、バウハウス叢書の一部や1923年の展覧会の際の大部なカタログ、あるいは、機関誌「バウハウス」、さらには、広報資料などが収集されています。私は1920年代のアートやデザインが好きで、特にダダイズムの名を冠した反芸術的動向には共感を覚えます。その中の1人、クルト・シュヴィッターズが独力で発行していた小雑誌、「メルツ」はゆっくりと見ていくと、新しい作品のヒントがどんどん湧いて出てきます。このように図書館とは、宝の山。でも、本当のお宝は皆さんそれぞれにとって価値があるもの。書棚の片隅にあった古ぼけた1冊が、目も眩むような未知の世界へと誘い込むかもしれません。宝探しの地図は皆さんが作るしかないのです。

Information②

■『ゼンリンの住宅地図 神戸市』2005年発行の全ての区を新しくしました

神戸市は利用頻度が高く、欠損ページもありましたので、今回神戸市の全区域を新しくしました。

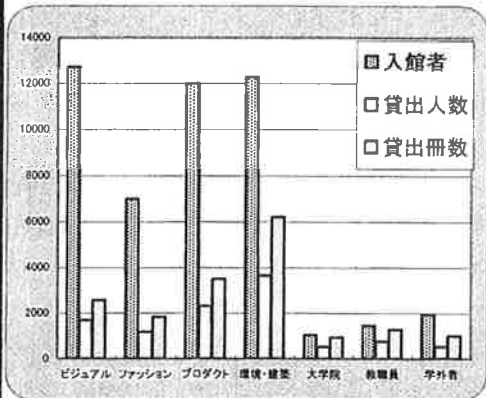
■図書館用意見箱を設置しました

利用者の皆さんの意見をできるだけ取り入れ、よりよい図書館にするためにご協力をお願いします。

設置場所は図書館の入り口自動ドアを入って左です。回答は図書館エントランスに掲示します。

■2005年度(2005年4月～2006年2月)の利用者統計が出ました。

前期の統計では、入館者・貸出人数・貸出冊数、すべて環境・建築がトップでしたが、年間入館者数はビジュアルが最多でした。



新学部創設、及びビジュアル学科再編

図書館も、下記のように新しく図書を購入しました。

【先端芸術学部】

★メディア表現学科

- 「現代写真のリアリティ」京都大学/編 「ゲルハルト・リヒター写真論/絵画論」 など写真論
- 「星野道夫の仕事」「Wolfgang Tilmans」などの写真集
- 「石ノ森草太郎萬画全集」などのコミック本

★造形表現学科

- 「鈴木爽司作品集:京焼・色絵金銀彩の世界」「器つれづれ」白洲正子「陶の声 阿部和唐作品集」 など
- 「古代ガラス:銀化と彩り」「ガレの枯れ:エミール・ガレの神髓」
- 「手づくりを楽しむステンドグラス」内藤修
- 「成井豊のワークショップ」

【デザイン学部】

★ビジュアル学科

- 「ナイト・ビフォー・クリスマス」ロバート・サブダ/作 「小さなバレリーナ」サラ・ギブ/作 などのとび出し仕掛け絵本
- 「もっと読みたいおはなし絵本100」「絵本論 この豊かな世界」など絵本の紹介や絵本論

Special feature

先端芸術学部の巻

◆毎回1学科を選んで、資料の探し方などお役に立ちそうな情報をお伝えするちょっとオトクな保存版

今回は4月に新しく創設された先端芸術学部のメディア表現学科と造形表現学科の2学科です。

図書館の本は書かれているテーマによって配架されている場所が異なります。下の図は先端芸術学部の学生さんに多く活用される図書の配架場所です。参考にしてください。

芸術的な写真集は748 ●

アニメーションは778.77 ●

工芸は芸術的要素を持つ工作でかつ伝統的・手工芸であるものを750台に収めています。

- 陶磁器は751
- ガラス工芸は751.5
- 木竹工芸は754

雑誌 最新号 ●

製本されたバックナンバー ●

Comickers Z726/COM ●

漫画の技術書 ●

映画テレビ技術 Z778/EIG ●

映像技術情報 ●

アサヒカメラ Z748/ASA 日本カメラ Z748/NIH ●

American craft Z750/AME ●

工芸作品の紹介 ●

まんがコーナーはB726.1 ●

絵本論はO19.5 ●

絵本はB726.5 ●

Ranking★2005

2005年度の利用の多かった資料を紹介します

《図書》

1位 妹島和世+西沢立衛読本-2005

523.1/SEJ

1位 ル・コルビュジェの勇氣ある住宅

523.35/LECa

1位 ハウス

527/HAU

1位 東京タワー(江国香織著)

913.6/EKU

5位 小嶋一浩:建築のプロセス

523.1/KOJ

《DVD》

1位 ヴァン・ヘルシング

A778.253/VAN

2位 Mr.インクレディブル

A778.77/MIS/1

3位 誰も知らない

A778.21/DAR

4位 花とアリス

A778.21/HAN

4位 茶の味

A778.21/CHA/1